

氏名	平 松 美佐子
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博乙第 1917 号
学位授与の日付	昭和 63 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	脈絡膜悪性黒色腫に関する病理組織学的研究 第 1 報 網膜色素上皮細胞層への浸潤形式 第 2 報 浸潤細胞に関する検討
論 文 審 査 委 員	教授 赤木忠厚      教授 栗井通泰      教授 増田 游

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

脈絡膜悪性黒色腫が、脈絡膜から網膜色素上皮細胞層に向い浸潤増殖していく過程を、光顕と電顕で観察し、網膜色素上皮細胞の反応態度と腫瘍増殖に伴う細胞浸潤、特に、リンパ球と腫瘍細胞の相互関係について検討した。

網膜色素上皮細胞は、腫瘍周辺の網膜剝離部において、増殖、遊走、赤血球の貪食などの多彩な変化を示した。網膜色素上皮細胞の増殖は、主に脈絡膜毛細血管の虚血性変化に基づくものであり、脈絡膜毛細血管には、fenestration の減少、内皮細胞基底膜の肥厚、多層化および基底膜上への沈着物の形成がみられた。そして、これらの変化は、腫瘍による脈絡膜毛細血管の機械的圧迫と血流の奪取に由来すると考えられた。細胞浸潤は腫瘍発育先端部にみられ、特に、腫瘍基底辺縁部と腫瘍内血管周囲に顕著であった。浸潤細胞は、リンパ球とプラズマ細胞であり、これらには幼若化傾向が認められた。腫瘍細胞とリンパ球は密に接し、両者間にデスモゾーム様の接着装置が存在し、さらに、リンパ球が細胞突起を腫瘍細胞内に嵌入させる所見もみられた。また、リンパ球と密着した腫瘍細胞には高率に変性所見がみられることから、リンパ球が腫瘍細胞に対して細胞障害性を持つことが示唆された。以上より、脈絡膜悪性黒色腫の原発巣にみられる細胞浸潤は、宿主の腫瘍に対する免疫反応の形態学的表現と推察された。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は脈絡膜悪性黒色腫が脈絡膜から色素上皮細胞層に向い浸潤増殖していく過程を形態学的に観察したものであるが、従来十分明らかにされていなかった網膜色素上皮細胞の反応態度とリンパ球と腫瘍細胞の相互関係について重要な知見を得たものとして

価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。